

重点目標	地域とともに生き、地域に貢献する学校づくりの推進
------	--------------------------

現 状	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 昨年度までの取組の結果、地域における本校へ理解が進んだ。校名変更を契機に、地域の一員としての学習活動、交流及び共同学習、地域貢献活動を一層発展させ、地域の理解を更に促進する必要がある。</li> <li>2 小規模校という特徴を良さとして生かし、学年・学部間がつながりのある、連携した学習活動を一層展開する必要がある。</li> </ol>
-----	---

具体的な目標	<p>児童生徒が将来地域で生きがいをもって社会参加するための基盤づくりを進めるために、次の3点に取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域を学習フィールドとした地域での学習、地域貢献活動を積極的に展開するとともに、本校の取組を発信する。</li> <li>2 居住地校交流を含む交流及び共同学習を積極的に推進するとともに、内容の工夫を図り、相互に成果のある交流活動を展開する。</li> <li>3 人材、事業所等の地域資源を活用し、学習活動の充実を図る。</li> </ol>
--------	---

目標達成のための方策	<p>地域を学習フィールドとする活動を「絆プロジェクト」として教育課程の中核に据え、次について積極的に推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域での活動の推進と取組の発信              小学部：地域の保育園とのさつまいも交流と収穫物のくまぐま園への寄贈              中学部：あきたクリーンパートナーとしての活動と地域の老人保健施設でのボランティア活動、地域での販売活動への参画              高等部：絆カフェ・ショップ、地域の老人世帯での除草・除雪ボランティアの推進、地域へのプランター設置・管理、秋田北鷹高等学校と共同の植栽・6次産業品の共同開発              保護者：保護者との協働による、米代川花火大会、100kmマラソン大会への親子ボランティア等の推進</li> <li>2 居住地校交流の推進              互いにメリットのある交流及び共同学習の推進のための、交流校との早期の打合せ、出前授業・地域学校展の実施と事後の評価の実施</li> <li>3 地域資源の活用              農事組合法人での職場実習の推進と、作業学習における技術指導              以上の取組についてホームページ等を活用して地域に積極的に発信する。</li> </ol>
------------	--

具体的な取組状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地域での活動の推進と取組の発信              小学部は北秋田振興局と連携して南鷹巣保育園園児とのさつまいも栽培と収穫物のくまぐま園へ寄贈を、中学部はあきたクリーンパートナーとして学校周辺の道路及びバス停の清掃ボランティアを定期的（月1回）な実施を、高等部は北秋田地域の商店街等へのプランター設置・プランター管理、秋田北鷹高等学校生徒との共同の植栽活動等、これまでの実績ある活動を継続しつつ、絆カフェ・ショップやお年寄り世帯の除草・除雪ボランティアは中学部生徒も計画的に参加した。              花火大会清掃ボランティア、100kmマラソン大会ボランティアは保護者との協働のボランティアとして定着しつつある。</li> <li>2 居住地校交流の推進              小学・中学部の希望者全員が延べ13回、いずれも各教科等の学習に参加した。年度当初に打合せを行い、双方のニーズに合わせた交流活動を行った。実施後、相手校と評価の打合せを行い、次年度に向けたそれぞれの課題等を確認した。</li> <li>3 地域資源の活用              地域の農事組合法人での営農実習を5名の生徒が実施するとともに、本校での新たな作物の栽培に関する助言・指導を受けた。全校児童生徒によるしその収穫を行い、高等部生徒が小・中学部児童生徒に実際の作業を通して教えるなどの合同学習も行った。</li> </ol>
----------	---

P

D

達成状況	<p>1 地域での活動の推進と取組の発信          小学部のさつまいも寄贈，中学部のあきたクリーンパートナー活動，高等部のプランター設置・管理及び，イベントでの絆カフェ・ショップの出店は地域に根ざした活動として定着している。          北秋田市産業祭で本校の紹介をするとともに，絆ショップを出店した。地域から本校の取り組みを知ってもらうまたとない機会になった。          親子ボランティアは保護者との協働の活動として定着した。休日にもかかわらず，花火大会後の清掃は50名，100kmマラソン大会ボランティアは20名の参加者があった。</p> <p>2 居住地校交流の推進          年度当初の打合せで学習内容とねらいを明確にした。出前授業と合わせて，積極的な評価が相手校から寄せられている。</p> <p>3 地域資源の活用          地域の先生を活用することで農業に関する知識と技術の高まりが見られた。地域の農事組合法人から指導を受け，にんにくの作付けを行った。新たな6次産品作りの契機としたい。</p> <p>上記の活動をホームページに「がんばれみんなの絆プロジェクト」コーナーで発信した。</p>	
------	---	--



自己評価	<p>(評価)</p> <p>(根拠)</p> <p>地域での学習活動を「絆プロジェクト」として，教育課程の柱と位置付けたことで，地域と関わる学習について，学部間のつながりと協力体制が見られ，一貫した取組ができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>居住地校交流においては，事前の打合せを丁寧に行い，当日に向けた単元構成のすり合わせなど，充実した学習活動につながった。</li> <li>地域貢献活動は，中・高等部生徒によるボランティア活動の一層の進展と「花火大会清掃ボランティア」等保護者との協働的な取組としての発展が見られた。特色ある活動として定着していきたい。</li> <li>絆カフェ・ショップは認知度が上がり，地域のイベント後の，作業学習製品に関する問合せも見られるようになった。中学部生徒が参加することによる上級生と下級生の学び合いは新たな伝統として根付きつつある。</li> <li>地域の人材活用により，作業学習全体の質が向上した。農産物の収穫量が増加し，新たな作物の栽培が6次産品の開発につながった。</li> </ul> <p>地域を舞台にした学習，地域への貢献については，ホームページで積極的に紹介するとともに，報道にも数多く取り上げられた。地域に関わる活動のほぼ全てが新聞記事に掲載され本校の児童生徒の理解促進につながった。</p>	C
------	---	---



学校関係者評価と意見	<p>(評価)</p> <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「街は大きな教室だ」を合い言葉に教育活動を展開していることが新聞その他の情報で紹介され，地域が力強く応援していることにつながっている。</li> <li>地域にある物，特産品等を意識して取り入れて学習が行われている。地域に出での活動も幅が広がり，機会も増えているようで，地域で生きていくことにつながっていくことを感じている。</li> </ul>	C
------------	--	---



自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度は創立40周年を迎える。これまで地域とともに歩み，地域に貢献してきた実績をもとに，より一層積極的に地域展開していきたい。</li> <li>「絆プロジェクト」は，教育課程の柱として来年度も継続し，全校研究とも連携して進めていきたい。その際，「主体的・対話的で深い学び」という視点を重視し，地域で学ぶことで「何を身に付けるか」や，自分たちの学びの成果を実感させる手立てについて共通理解して取り組んでいきたい。</li> </ul>	A
-----------------------	--	---